

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

令和5年度の「全国学力・学習状況調査」の本校の結果をお知らせします。

なお、この調査は、毎年4月に全国の6年生を対象に行われています。この結果をもとに今後の学習や生活の改善に生かしていきます。引き続き、ご家庭のご協力をお願いします。

1 教科に関する結果について

(1) 国語について

- 正答率が80%前後である内容は、言葉の使い方や読むことです。また、選択式の問題で解答が一つの場合や、問題文の内容が簡潔であるものは、正答率が高いです。
- 正答率が40%以下である内容は、書くことや読むことの記述式や選択式の問題です。
- 解答の形式として無解答が、県平均や全国平均よりも高いことから、問題文が長く、内容の整理ができずに諦めてしまっている傾向があります。ここから読む力をつけていく必要があることがわかります。

(2) 算数について

- 正答率が70%前後である内容は、変化と関係や図形です。基礎的な比例の関係や図形の定義は、定着していることがわかります。
- 正答率が30%前後である内容は、変化と関係や図形、データの活用の記述式です。ここでは、聞かれている内容を整理して、必要な答えを求めることが難しいということがわかります。
- 正答率が低いものほど無解答が県平均や全国平均よりも高いことから、これらの問いが基礎的なものから知識を応用したもの、情報を読み取る問題ですが、どのように記述すればよいかわからない場合、情報の整理ができなかったことが考えられます。

(3) 両教科に共通することについて

- 国語、算数ともに読み取る力、内容を整理する力、考えを書く力が必要とだと考えられます。
- 家庭での学習習慣を定着させ、基礎学力の定着を目指すとともに、朝学習などを活用して、スモールステップでの成長を促していきたいと思います。
- 既習内容を振り返り、バランスよく、どの領域も定着できるようにしていきたいと思います。

2 質問紙について

- 生活習慣については、ある程度身につけていることがわかります。また、学校が楽しいと感じている児童が多いです。これは、友達との関係が良好であることが理由と考えられます。
- 自分自身については肯定的に捉えている児童が多いです。
- 休日や放課後の学習時間がやや少ないことがわかります。また、読書の習慣があまりないことや本の内容と合わせて読むことの習慣化が必要であることがわかります。
- 国語、算数ともに大切な学習であることはわかっているが、苦手意識を持っている児童がやや多いです。国語は、考えをまとめたり伝えたりすることに抵抗があります。
- 算数に対して、苦手意識はありますが、最後までやろうとする気持ちは強いです。どちらの教科も将来役に立つことは理解していますが、苦手意識があるようです。
- ICTを活用した学習にはとても好意的です。

今回の調査結果を生かし、家庭・学校・地域が互いに協力、連携し合いながら、一人一人の児童の学力向上に向け取り組んでいきたいと思います。今後とも、ご理解・ご協力の程、よろしく願いいたします。